第39号 町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～
【３年間を省みて・・・新たな一年に向けて】

早いもので町民の皆様の負託をいただいて、町長に就任し、昨年の十月で三年が経過しました。

就任して三カ月は総合計画の取りまとめや公約の実現に全力で臨み、また、失われた信頼回復に全力投球していたことが、ついこの間のような気がいたします。時の過ぎゆく速さを感じております。

世界大恐慌の時代に、アメリカ大統領に就任したフランクリン・ルーズベルト大統領は、就任してから百日で法案を次々と成立させ、ニューディール政策を成功に導いたとされています。

そのことを表す言葉として「ハンドレット・デイズ（百日）」「政権百日」という言葉があります。

就任前に、私はそのことを意識し三カ月が勝負と考えて、休みを惜しんで町長室で夜遅くまで仕事をしていたことを、今思い出すとともに、高木副町長を先頭に、各管理職のご協力と職員の方々の奮闘に感謝するものであります。また、タイトなスケジュールでの審議にご理解いただいた各審議会委員の皆様、議会議員の皆様にも感謝の思いです。

福島町の人口は、昨年十一月末現在で四千百十四人となっておりますが、人口の動向は、自然的な要因と社会的な要因の増減で成り立っております。

自然的な要因とは、生まれた方の数から亡くなった方の数を引いた増減で、社会的な要因とは、転入してきた方の数から転出した方の数を差し引いた増減となっております。

十月末の人口は、四千百十三人でしたが、自然的要因で生まれた人の数三人で、死亡した人の数が三人ですからプラスマイナスゼロです。また、社会的な要因で転入してきた人の数が九人で、転出した人の数が八人となっており、前月に比べ一人増加となり、今年初めて人口がプラスとなりました。

福島町では、ここ数年、年間で百五十人程度の人口が減少しており、この状況が続けば来年には、四千人を割り込み三千人台に突入することが危惧されております。

渡島管内でも二番目に人口の少ない町となっておりますので、人口減少が続く中でいかに町をコンパクトにし、行政をスリム化していくかが、私たちに課せられた課題だと感じております。

いつも伝えていることですが、日本全体の人口が減少して久しい今日において、一地方が人口を増やすことは至難の業ですが、人口減少を緩やかにすることは可能だと思いますし、そうしなければ町を維持することは困難です。

それには、全てを行政に委ねるのではなく、そこに住んでいる人々が主体的にまちづくりに取り組む意欲が必要で、全国の先進事例がそれを証明しており、私たちにできないことはないと思います。

十月は神無月といわれ、島根県の出雲の国に神様が集合すると言われておりますが、十一月は、全国の首長さん方が東京に集結する月でもあります。

全国町村長大会、災害復旧促進全国大会、全国過疎地域自立促進連盟定期総会など全国の首長さんが参加する大会が集中して行われ、全国各地でまちづくりに奔走している首長さんと交流することができました。

善敗由己（ぜんぱいおのれによる）という言葉がありますが、成功するも失敗するも自分自身によるものであり、いかなる場合や場面でも、主体性を持って力の限り行動すれば、必ず道は開けてくるものです。